

個別支援会議録の内容分析からみる地域の精神保健福祉に関わる支援課題

目的：自立支援協議会精神障害専門部会での個別支援会議録を分析することにより、個別の支援ニーズについて明らかにし、精神保健福祉における地域課題とその解決のための支援体制の整備について検討することを目的とした。

方法：個別支援会議録 96 件を対象として、検討内容に着目し、個別の支援ニーズについて質的帰納的に分析した。

結果：個別の支援ニーズとして、【精神疾患の障害特性に応じた生活支援ニーズ】【社会資源の活用による自立支援ニーズ】【ライフステージにおける生活課題の達成支援ニーズ】【関係機関による連携支援ニーズ】の 4 つのカテゴリーと 25 のサブカテゴリーが帰納的に抽出された。

考察：個別支援の対象者は 40 代が多く、就労による社会復帰の課題と同時に親の高齢化に伴う健康問題や介護課題を抱えており、対象者本人だけでなく家族全体への支援やサービスの調整が必要である。多問題家族や家族の発達課題への支援ニーズは県境に位置し他府県からの流入も多い地域の課題であり、家族支援を軸とした包括型の支援体制が求められる。保健・医療・福祉・教育・就労といった幅広い個別ニーズをもつ障害者福祉と給付管理的な性格が強い高齢者福祉との制度体系上の相違を乗り越え、複雑かつ脆弱な家族単位の問題を解決し、精神障害者の地域支援を支えていくためには、制度間連携や既存資源の再開発、新たな制度開発による支援体制の整備が重要であると考えられる。